

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403087	
法人名	医療法人 松尾会	
事業所名	グループホーム まつの実 1F	
所在地	福島県 いわき市 平字愛谷町四丁目2-3 2-4	
自己評価作成日	平成27年8月3日	評価結果市町村受理日 平成28年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kairokensaku.jp/07/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成27年9月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者様の生活パターンに合う様に又、利用者様の気持ちに寄り添うように努めている。
- ・隣接された病院と共に連携を図り、利用者様の急変時など速やかに対応できるようになっている。
- ・近隣の長寿会に加入し定期的に交流をもっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所と同一法人の医療機関が隣接されており、医療連携が図られ、利用者は安心して医療機関を受診できる体制が整備されている。また、医療機関の医療安全委員会や感染症防止委員会など各委員会にグループホームの職員が所属し、情報を共有しながら事故防止と感染症予防に努めている。
2. 管理者と職員は、日常生活の中で利用者の尊厳と意向を大切にした支援に努め、一人ひとりの状態や意向に寄り添った支援に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のよう <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所だけでなく、玄関など共有スペースになっており、職員が日々、理念の共有に取り組んでいる。	事業所内に理念を掲示し、管理者と職員は常に確認しながら理念に沿ったサービスを心掛けている。また、理念にそぐわない職員の言動やケアについては、管理者が注意喚起を促し、ミーティングの中で再確認し実践に繋げている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に加入し地区の行事参加に参加して交流を図っている。また、今年は市内の音楽部の高校生との交流で、発表会の演目を披露してもらったり、ふれあいの場を設ける事ができた。	地域自治会に加入し、地区行事への参加や役員を担うなどしている。また、地区長寿会や高校吹奏楽部、保育所、子ども御輿が訪れるなど、地域の一員として交流を深めている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通じて認知症について、その人らしく生活できるように支援すること理解して貰えるように努めている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進委員会で地域住民や利用者家族からの意見や質問に応じサービスに反映させている。また、地域包括センター職員の方にも参加してもらい、アドバイスをいただいている。	地域住民の方の会議出席はいつでも参加できるようにし、運営推進会議は定期的に開催されている。会議では事業状況報告や勉強会等も実施しているが、事業所の取り組みや課題等について報告し、委員からの意見、要望、助言などをいただく事が少ない。	地域と家族の方の会議出席がオープン参加となっており、前回会議の振り返りと課題等に対する取り組み状況や進捗状況を報告するなどし、情報を共有できるよう検討して欲しい。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からぬ事や詳しく聞きたいこと等あった際には実情を踏まえながら相談を行っている。	市の担当者とは、制度改正に伴う相談や事業所の実情報告や利用者の困難事例の相談を通し協力関係を築いている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が個々の心身や人権に及ぼす悪影響についての知識を理解するよう努めながら、身体拘束をしないケアを心がけている。また、玄関の施錠については家族の同意を得た上で行っている。	身体拘束によって利用者が受けける弊害について、研修会へ参加し理解を深め、利用者に寄り添った支援に努めているが、事故防止の観点から家族の同意を得て、玄関のオートロックを実施している。	事故防止の観点から、玄関の施錠を実施しているが、施錠に頼らないケアを実践する工夫を全職員で検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	近年、増加している虐待について勉強会を通じて理解し、事前防止できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、資料を中心とした勉強会を行い理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、質問したい事や疑問に思ったことが無いか確認して貰ったうえで契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口により、担当者が対応を行い苦情を受け入れる際は管理者・担当者を交えて改善点の見直し実行に移している。	日頃の生活の関わりの中で利用者の意見や希望を把握するよう努め、家族からは運営推進会議や面会時などに意見、要望を聞く機会を設け、それらを運営に反映するよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、小ミーティングを行っている。それ以外にも定期的に各階別や全体ミーティングを行い、スタッフの意見・提案を出してもらい運営に反映させている。	管理者は、個別面談や日頃から職員の意見、要望を聞く機会を多く持っている。また、ミーティングや会議の中で意見や提案を出せる雰囲気づくりと、出された意見等を会議で検討し運営に反映するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境、状況についてはスタッフの意見を基に話し合いを持っている。休日については希望を最大限に尊重して就業環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等へは、なるべく参加できるように呼びかけ勤務の調節をしている。新人などは研修期間を設け先輩スタッフに指導を受けるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会に加盟しており情報の共有をしている。また、研修に参加した際は他業者との方と交流を図り、サービスの向上に取り組んでいる。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所契約時に家族様を交えて会話する際に不安に思っている事や、希望している事について話している。また、情報はスタッフで共有し関係作りに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問された際に近況報告をしたり、気になつていてる事など談話を交えながらコミュニケーションを図るように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を基にミーティングなどで話し合いを設け必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とはスタッフは一緒に散歩へ出かけたりレクリエーションを行なう飲食時も味の感想を言い合いながら関係性を深めている。また手仕事などやれることは一緒に協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にホームでの生活について報告して理解して頂いている。また、面会の際にはご家族と当事業者の要望など話し合いをもち協力関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や手紙、電話などで家族様に協力して頂きながら、馴染みの人との連絡が取れるよう支援している。	利用者や家族の話から、馴染みの方や場所、地域での関係性を把握し、便りでの交流や家族の協力を得て面会、電話連絡などで関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人との関わりが苦手な方や孤立しやすい利用者様にはお茶やレク・TVの歌番組などから会話のキッカケを作り信頼関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても必要に応じて相談が出来るような環境作りを心掛けている。また、近況を話し合えるような交流を心掛けている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で希望や意向などの意思を引き出し把握する事に努めている。また、本人の望んでいない事は無理強いせず自身の考えを尊重している。	日常生活の関わりの中から、利用者の思いや意向の把握に努め、本人の思いや意向を尊重し、日常生活の中に結びつけていくよう取り組んでいる。また、意思疎通の難しい方には、表情や仕草、行動から本人の意向をくみ取り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族様を含め過去の生活歴や経験談などを支援サマリーを作成し全スタッフが把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に日々の詳細な様子を記入し行動の様子が分かるようにしている。また、病院のリハビリを受けている場合、様子を担当の方から聞き 日常の支援に役立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族からの要望だけでなく、その人に必要な支援に対して専門職と連携を図りながら介護計画の作成に役立てている。	利用者の視点に立ち、日頃から、本人の意向と家族の希望等を確認しながら、これまでの現在の生活を維持・継続できるよう関係者で話し合い介護計画を作成している。また、3ヶ月毎の見直しと利用者的心身状況に即した見直しも実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様ごとに記録ファイルを作成している。 情報の共有はミーティングやスタッフ連絡帳を使い他階の状況を把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活全般を支援し、本人・御家族の状況に 応じて必要とされるニーズに応えられるよう に話し合いをもち、双方の負担にならないよ うに支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の隣組に参加し回覧板などで情報を共有し 地域資源の把握に努めている。また、花火大会 や秋祭りの御神輿かつぎなど地域行事が行われ る際には出来る範囲で参加できるよう努めてい る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関と併設されている利点を活かし24時間 主治医や看護師と連携ができる環境である。主 治医が不在時でも当日の医師に診察してもらう事 ができる。	同法人の医療機関が併設されており、24時 間オ nコール体制が取られ、利用者の「緊急 情報カード」を備え、安心して受診できるよう 支援している。また、定期健康診断や歯科検 診を実施し健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて 相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	体調変化や普段と様子が違った際には、す ぐに病院に連絡・相談ができる体制になっ ている。また、必要に応じて適切な指示 や受診に繋げる事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	入院した場合、その後の状況について常に 医師や看護スタッフと連携が取れる体制にな っている。また、入院中はスタッフが様子 を確認する事も兼ねて1日1回面会をしてい る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 できることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	家族様や医師との話し合いを持ち、医師からの指 示や家族様の同意をもらい今後の利用者・家族 支援について話し合って決定している。	利用開始時に「グループホームまつの実指 針」により、重度化した場合の医療連携体制 等について、利用者、家族に説明し同意を得 ている。利用者の状況変化時には、医師、家 族、職員が話し合い、方針を決定している。 終末期は病院での対応としていることから看 取りの実績はない。	重度化や終末期に向けた事業所指針を再 検討し、事業所で出来ること、出来ないこ とを明文化し、家族や主治医、職員が情報 を共有しながら、状況変化の都度、関係者 で話し合い同意を得ておくことが望まれ る。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けています	緊急対応マニュアルを作成しており全スタッフが 共有できる場所に置いてある。また、看護師によ る助言・指導も日常的に行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所で火災・地震マニュアルを作成してあり春・夏・秋に避難・火災訓練を実施している。また、その際地域住民の方にも訓練の参加を呼び掛けている。	夜間を想定した避難訓練を消防署立ち会いと医療機関協力のもと実施しており、火災を想定した避難訓練を年3回実施している。また、署員から心肺蘇生法、AED取り扱い研修も実施している。非常用備蓄品も備えている。	火災だけでなく、地震・風水害等の災害を想定し、昼夜を問わない想定訓練を数多く実施し、全職員が利用者を安全に避難誘導できるよう取り組んで欲しい。また、運営推進会議委員や地域の方の参加協力が得られるよう検討して欲しい。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ全員が笑顔を心掛け、会話の声の大きさや利用者様に不快な気分にさせるような会話を聞こえる位置で話さない等、注意をしている。	利用者の人格を尊重し、人格を損なわない言葉づかいや言葉かけを行い、排泄、入浴時等には他人の前で恥ずかしい思いをさせない声かけに努めている。また、居室には本人の了解を得てから入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思や気持ちを大切にし、あくまでも本人の意思を優先するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、一人一人の生活リズムに配慮しながら出来るだけ起床・就寝・入浴・食事など本人様のペースで対応している。また、本人様が拒否された場合は、声掛けの時間や対応するスタッフを変更など工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身では整えられない方はスタッフが起床時に対応している。また、身だしなみに気を使う方はシャンプーや美容院の利用などの希望に出来る範囲で支援・対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	料理の下準備や配膳下膳など出来る時は手伝ってもらっている。また、お弁当や出前を時々、注文して食べる喜びを共有している。	同法人の栄養士が献立を作成し、食材も一括購入している。利用者の持っている能力を発揮できるよう、食材の下準備や食器洗い等に参加して頂き、季節の食事や出前を取り入れ、楽しい食事となるよう取り組んでいる。なお、食後の口腔ケアも実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養価については栄養士により栄養のバランスの摂れた物となっている。水分量も毎日チェックし記録する事で把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時だけでなく毎食後に口腔ケアを行っている。また、併設病院の言語療法士から誤嚥予防のアドバイスや嚥下についての相談・診察の協力を得ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意のある方は定期的な時間での声掛けや表情を見て誘導している。オムツ着用している方でも便意を訴えた際は、本人のADLや状態をみて便座に座ってもらい自力排泄を試みている。	オムツに頼らない、自力排泄に取り組んでおり、利用者の排泄習慣を定時誘導や排泄チェック表で把握し、仕草や表情からくみ取り、羞恥心と自尊心を損なわない声掛けを行い、トイレでの排泄と自立に向けた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて個々の排泄パターンを把握し便秘がちの方にはヨーグルトや食物繊維の多い食べ物を提供したり体操などの運動で自然排便を促している。それでも困難な場合は主治医と相談し下剤を処方・使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	連日、入浴できるよう努めている。入浴順番はスタッフが調整しているが、本人様の意向を優先できるよう配慮している。また、入浴が出来ない方は清拭で対応している。	利用者の希望で毎日入浴ができ、週平均3～4回実施している。入浴順番は本人の意向に配慮しながら職員が調整している。介護度の高い利用者が多く、身体状況に配慮しながら転倒防止と安心感を持って入浴して頂けるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムで昼寝や就寝時間を決めてもらっている。夜間不眠の方にはスタッフが話し相手になり安心して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方ファイルを作成し、薬を準備する人・配布する人、飲み残し・飲み忘れないか確認する人に分担している。確実に服用するまで見守りチェック表にサインしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の得意としている分野などをスタッフが把握し、それに合わせて活力のある生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩などはその日の天気や体調を考慮して支援している。また、外出したがらない方は外気浴や診察・リハビリの帰りに公園散歩などの支援をしている。	事業所として、外出支援は利用者が安定した生活を送っていく上で重要なことと捉えています。花見や紅葉見学等を行っている。また、買い物は家族、職員の支援で実施し、行きつけの理美容院には、店の送迎協力で外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり、鍵付きのロッカーで保管している。買い物にはスタッフが付き添ったり希望された品を代行で購入している。また毎月の収支決済を請求書と一緒に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙でのやり取りは事前に家族様の了承を得て対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあつた飾りつけをして季節感を出している。また、利用者様と一緒に作った物や、近所の保育園児が作った折り紙や展示物を飾り家庭的な雰囲気を心掛けている。	共用空間づくりには、家庭の延長と生活感を重視し、利用者と職員の共同作品、写真や保育園児の作品等が飾られ、居間には、新聞が用意され、日めくりカレンダーや近所の神社のお札等が飾られている。利用者の席は、相性、身体機能を考え配置している。また、温度、湿度管理を行い、楽しい憩いの場をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で一人になれるスペースは無いものの利用者様同士で談話やレクリエーションが出来るようソファーやテーブルの位置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	家族様の協力を得て自宅で使用していた馴染みのある私物を持ち込んで少しでも利用者様が落ち着ける空間を作れるよう心掛けている。 (湯飲み・茶碗・寝具・衣類など)	居室は、本人、家族が用意された身の回りの物で、家庭で使用されていた湯飲み・茶碗・寝具・衣類等馴染みのもの込み、落ち着いて生活を続けて行ける環境を作っている。また、家族写真、手紙、誕生祝のカード等を飾り、テレビを持ち込み、ゆったりした生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており必要な所へ手すりが取り付けられている。ベットは高さ調節が出来、本人様の立位や移乗時に最適なベットの高さに合わせている。		